

「やさしい日本語」ワークショップのご案内



「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を外国人にも分かるように配慮した簡単な 日本語のことです。日本語を母語としない方々が安心して医療を受けられるように東川日本語学校の協力を頂き、ワークショップを開催します。留学生の方々と交流、コミュニケーションを図りながら楽しく学べる場です。興味、関心のある方は是非ご参加ください。

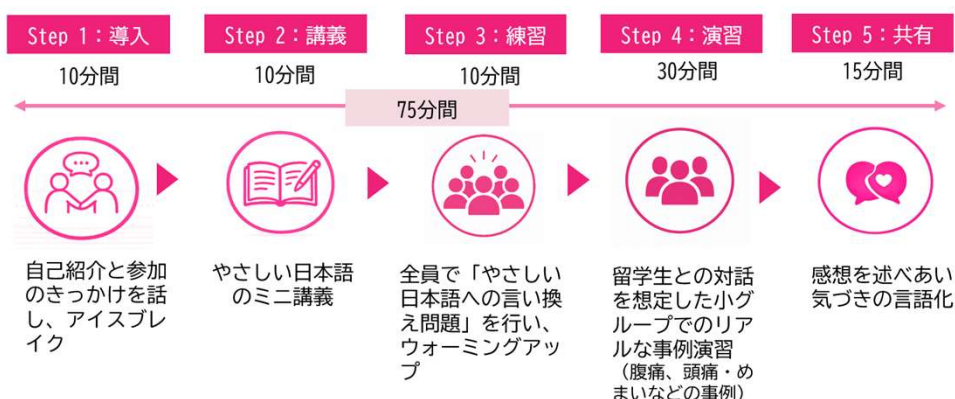
目的

「やさしい日本語」を通して、相手の状況に合わせた（相手に配慮した）コミュニケーションを考えることができる

目標

1. 相手に合わせた「やさしい日本語」を体験する
2. 「やさしい日本語」で伝わることを実感する
3. 相手の状況に合わせたコミュニケーションを考える

ワークショップの流れ



「やさしい日本語」のコツを使って実際にコミュニケーションを行います。

「やさしい日本語」のコツ

- ・短く、はっきりと、最後まで言う
- ・尊敬語・謙譲語は避け、丁寧語を使う
- ・漢語よりも和語を使う
- ・擬音語・擬態語は使わない
- ・単語のはじめに「お」をつけない
- ・カタカナの外来語は使わない

留学生が「模擬患者」として協力

近隣の日本語学校

「模擬患者」として東川町立東川日本語学校の留学生が協力
日本語レベルはN1～N4（上級～初級）

多様性

中国、韓国、台湾、ミャンマー、インドネシア、ウズベキスタン、など多様な文化的背景を持つ留学生が参加

リアルなフィードバック

実際に伝わった表現、わかりにくかった表現について、留学生からのフィードバックをその場でもらえる

多文化理解

語学学習ではなく、留学生との対話そのものを通した多文化理解の場

模擬患者の留学生から、どのような言い方をすれば伝わりやすいかフィードバックを受けることで、言葉を工夫する重要性をリアルに実感できます。

単なる言語の伝達にとどまらず、思いや工夫が伝わることでコミュニケーションの可能性が広がる——そんな学びの瞬間をぜひ体感してください。

外国につながるの方々だけでなく、高齢者や障がいのある方、子どもたちなど、ことばの理解や聴こえに不安のある方々にも「やさしい日本語」は役立ちます。様々な場面で「やさしい日本語」が活用されることを期待しています。

旭川医科大学看護職キャリアセンターHPもご参照ください。

<https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/program#patient>

お問い合わせ：✉ kango-career@asahikawa-med.ac.jp ☎0166-68-2684

